

平成28年度オホーツク総合振興局管内ケガニ漁場一斉調査結果

平成28年5月9日

(地独) 北海道立総合研究機構水産研究本部
網走水産試験場

この調査は、漁期前半のケガニかご漁業の状況をモニタリングする目的で行われています。昭和60年から毎年1回、下記機関と共同で継続実施しています。

網走支庁管内毛がに漁業対策協議会および各漁協けがにかご部会
北海道オホーツク総合振興局産業振興部水産課

宗谷総合振興局管内についても同様の調査を実施しており、その調査結果は稚内水試が取りまとめています(稚内水試のホームページをご参照ください)。

なお、次年度の資源量や漁獲許容量については、漁期後半の「資源密度調査」から推定されます。

調査結果の要約

- ・ 甲長8cm以上雄の100かご当たり漁獲尾数は163尾で昨年(377尾)の0.4倍であり、過去のオホーツク総合振興局管内の平均値(310尾)の0.5倍でした。
- ・ 甲長8cm未満雄の100かご当たり漁獲尾数は25尾で昨年(71尾)の0.4倍であり、過去の平均値(137尾)の0.2倍と非常に減少しています。今後の加入状況には十分注意が必要です。
- ・ 甲長8cm以上雄に占める堅ガニの割合は管内平均では69%で、昨年(78%)より9ポイント減少しました。
- ・ 全ての雄のうち甲長8cm未満の雄が占める割合は14%で、昨年(16%)より2ポイント減少しました。

調査方法

平成28年度の調査は沙留、紋別、常呂、網走、斜里第一の各漁協に所属するけがにかご漁業許可船8隻が参加し、4月14日から22日までに実施しました。

各船は通常の漁場で操業し、漁獲されたケガニを選別せずにコンテナ1杯(約40kg)になるまで採集しました。このときコンテナが1杯になるまでのカニかごの数を記録してもらいました。また、採集した標本を無選別のまま全て(雌や8cm以下の雄を含めて)港に水揚げし、甲長や体重などを測定しました。

調査結果

表1に各船の調査日、調査点の緯度経度、水深、C P U E (1隻100かご当たりの漁獲尾数)を示しました。

表 1 2016(平成28)年 オホーツク総合振興局管内ケガニ一斉調査標本採集データ一覧

海域	漁協	調査日	船名	北緯	東経	水深(m)	C P U E (100かご当たり漁獲尾数)				
							甲長8cm以上オス			8cm未満	
							堅	若	計	オス	
網走西部	沙留	4月21日	第三北宝丸	44 - 31.8	143 - 19.0	65	69	74	143	40	0
			第三十八龍宝丸	44 - 31.2	143 - 14.7	64	142	92	233	33	0
	紋別	4月21日	第五十八弘陽丸	44 - 27.0	143 - 37.9	106	108	71	179	34	0
			第三十八永宝丸	44 - 25.5	143 - 33.6	96	124	76	200	16	16
海域1隻平均							111	78	189	31	4
網走中部	常呂	4月14日	第五十八高弥丸	44 - 17.4	143 - 58.3	132	23	5	28	7	2
			第八十八海宝丸	44 - 16.8	143 - 50.6	76	217	46	263	25	0
	海域1隻平均							120	25	145	16
網走東部	網走	4月15日	第五十八欣宝丸	44 - 59.8	144 - 25.3	40	104	13	118	20	76
			斜里第二	4月22日	第十八豊征丸	44 - 0.0	144 - 34.9	63	115	23	138
	海域1隻平均							110	18	128	24
管内1隻平均							113	50	163	25	13

・CPU E (100かご当たり漁獲尾数)

図1に漁獲対象である甲長8cm以上雄ガニのCPU Eとそれに占める堅ガニの割合の年変化を、図2には8cm未満の雄ガニ(規格外)のCPU Eを地域別とオホーツク総合振興局管内全体で示しました。

注) : この調査は通常操業用の3寸8分目のかごによる調査であるため、密度調査と異なり、採集される雄ガニのほとんどは甲長7cm以上の個体となっています。

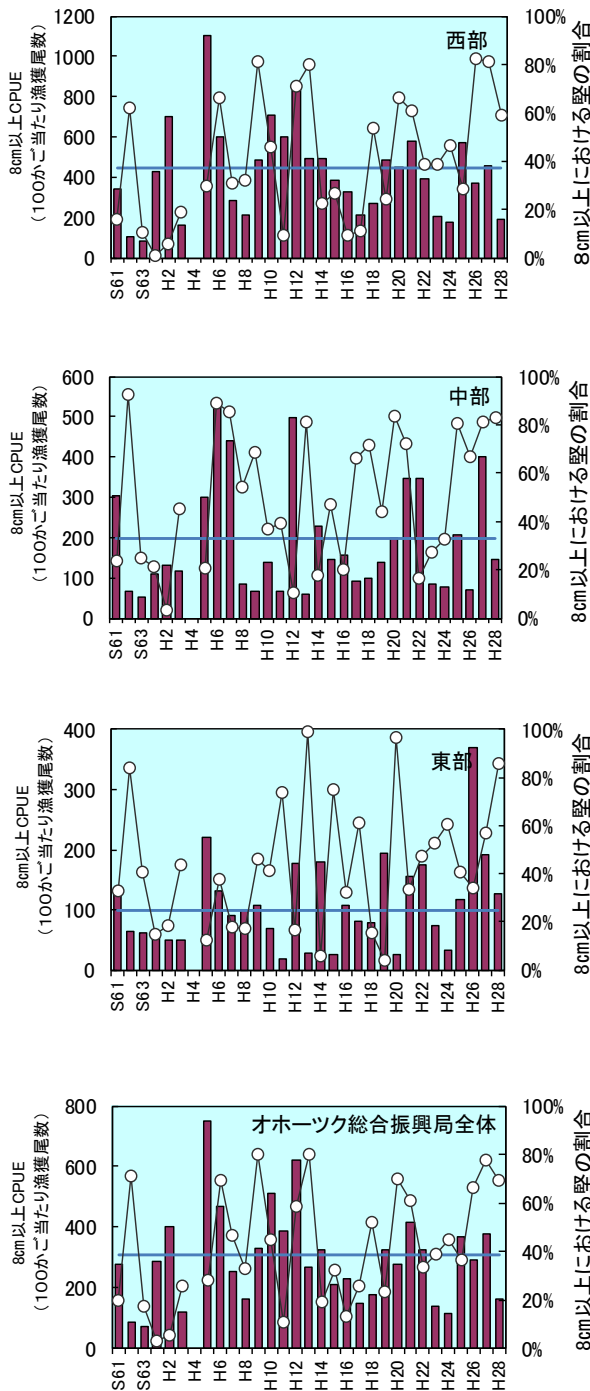


図1 甲長8cm以上雄の100かご当たり漁獲尾数 (CPU E; 縦棒) と堅ガニの割合 (白丸折れ線) の推移 (青線はCPU E平年値)

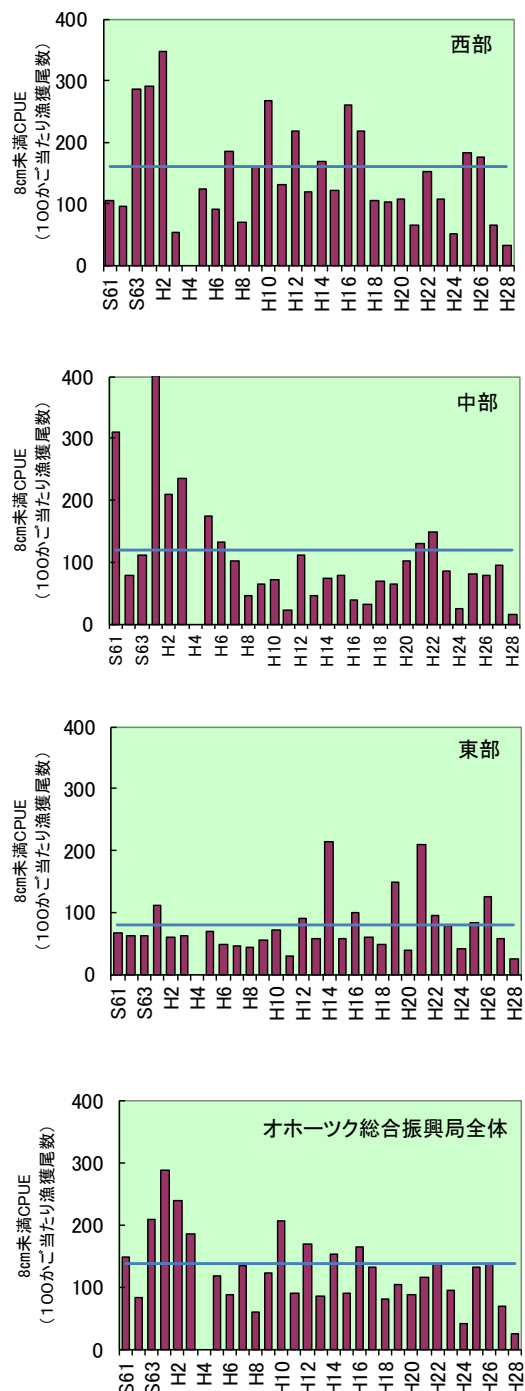


図2 甲長8cm未満雄(規格外)の100かご当たり漁獲尾数の推移 (青線は平均年値)

①甲長8cm以上の雄ガニのCPUE：

管内の平均CPUE（1隻100かご当たりの漁獲尾数）は163尾で、平成27年度（377尾）の0.4倍で、昨年より大幅に減少しました（図1）。また、平年値（昭和61年から平成20年までの平均値310尾）と比較すると、平成28年度の値は平年値の0.5倍でした。

海域別にみると、西部海域は189尾で昨年度（457尾）の0.4倍、中部海域は144尾で昨年度（401尾）の0.4倍、東部海域は128尾で昨年度（191尾）の0.7倍となり、西部海域と中部海域で大幅に減少しました。平年値と比較すると、西部海域（平年値446尾）は0.4倍、中部海域（同196尾）は0.7倍、東部海域（同99尾）は1.3倍で、西部海域で大幅に減少しました。

②甲長8cm未満雄ガニ（大部分が7cm台）のCPUE：

管内の平均CPUEは25尾で、昨年度（71尾）の0.4倍でした（図2）。また、平年値（137尾）と比較すると平年値の0.2倍と大幅に減少しています。

海域別にみると、西部海域は31尾で昨年度（65尾）の0.5倍、中部海域は16尾で昨年度（95尾）の0.2倍、東部海域は24尾で昨年度（57尾）の0.4倍と、全海域で大幅に減少しました。平年値と比較すると、西部海域（平年値160尾）は0.2倍、中部海域（同119尾）は0.1倍、東部海域（同79尾）は0.3倍で、全海域で大幅に減少しました。今後の加入動向が非常に懸念されますが、この調査は通常操業用の3寸8分目のかごによる調査であるため、密度調査と異なり、採集される雄ガニのほとんどは甲長7cm以上の個体となっているため、今後の加入動向については6月の密度調査によって精査される予定です。

・甲長8cm以上雄の堅ガニの割合と漁獲動向

採集された甲長8cm以上雄ガニのうち、堅ガニの割合は管内平均では69%で、昨年度の78%より9ポイント減少しました（図1）。海域別に見ると、西部海域は59%で昨年度の81%より22ポイント減少しました。中部海域は83%で昨年度の81%より2ポイント増加、東部海域は86%で昨年度の57%より29ポイント増加しました。

甲長8cm以上の堅ガニのCPUEは管内平均1隻当たり113尾（表1）で、昨年度（294尾）の0.4倍でした。海域別には、西部海域が111尾と昨年度（370尾）の0.3倍、中部海域が120尾と昨年度（325尾）の0.4倍、東部海域が110尾で昨年度（109尾）の1.0倍でした。

・各銘柄（サイズ）の漁獲割合

全漁獲物の雄ガニのうち、銘柄「小」（甲長8cm台）の割合は、管内全域としては昨年度（58%）より14ポイント低い44%、「中」は昨年度（24%）より12ポイント高い36%、「大」は昨年度（3%）より3ポイント高い6%でした（図3）。また、規格外雄の総数に占める割合は、管内全域としては昨年度（16%）より2ポイント低い14%でした。

甲長8cm以上雄ガニのうち、海域別に見た銘柄「小」が占める割合は、西部海域が昨年度（65%）より19ポイント減少して46%、中部海域が昨年度（72%）より15ポイント減少して57%、東部海域が昨年度（75%）より12ポイント減少して63%となりました（図4）。

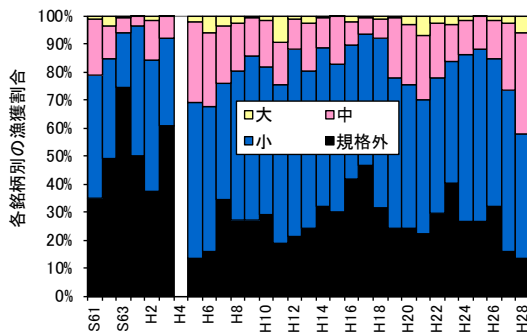


図3 オホーツク総合振興局管内全体における銘柄別漁獲割合 (%) の推移

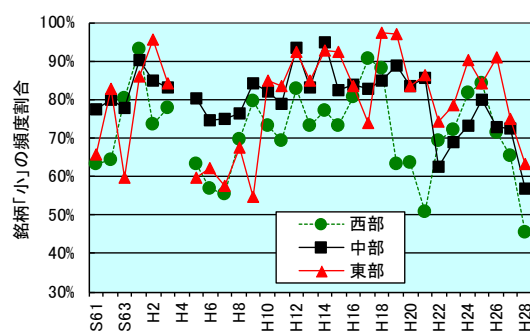


図4 甲長8cm以上（規格内）の総数において小（8cm台）が占める割合の推移